

講演3 新型コロナウイルス感染症〈施設内療養〉から学んだこと 山岡 亨 氏



- ①法人の紹介
- ②クラスターの状況（第3波時）施設内での療養を決断。ゾーニングで対応。医師、看護師の常駐がなく、不安との闘い。スタッフは誰一人勤務拒否すること無くありがたかった。風評被害があった（スタッフの家族など、登校・登園遠慮するように、等）応援メッセージや、他施設も大変な中でヘルプに来てくれ、心強かった。
- ③今、改めて思う事。感染対策の徹底の継続、ご家族に大きな負担となっている閉所時の通所利用者への支援、緊急時における人材確保・育成。情報網の整備（誰がどこにどの情報を伝えるか）、信頼関係・ネットワークの構築、地域との交流、地域理解、緊急事態に対応できる資金の確保。共に戦った職員をこれからも大切にしたい。

参加者の感想

- ・コロナ感染症でご苦労された様子よく伝わりました。きっとこの事は今後のいい財産になると信じています。そして、いろいろ考えられた対策は、大きく前進した証だと思います。
- ・コロナとの戦い本当にお疲れ様です。対策これからも大変と思います。最近利用者の方が自宅に帰ることができたと心から喜んでいました。これまでの対策等に感謝していました。
- ・地域との連携かわりにこれからも期待しています（地域の中で自分らしく生きる取り組み）
- ・実際入所施設等でクラスターが発生した場合は、人材や感染予防具、資金等1法人では対応できないと考える。地域事業所や市町村県が一体となり対応できるシステムを作らなければ今後のWith コロナは難しいと考える。

総括 社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会理事長 山岡 亨 氏

一般社団法人奈良県手をつなぐ育成会理事長 阪口 貴子

山岡亨氏からは、施設運営の立場より、

- ・本人が入院の場合、家族にしか付き添いをお願いできない現状であること
 - ・本人のこれからをどうするか？成年後見の利用についてなど相談すべき事が沢山あること
 - ・本人、家族が高齢化している中、医療の話は欠かせない
- として、以下3点を挙げられました。

- ①サポートブックの記入（「なら Heart & Heart」）
- ②出来るだけ健康で長生きしていただきたい。
- ③福祉と医療の役割を再認識し、自分たち福祉のやれることから取り組みたい。

阪口理事長からは3つの提案がありました。

- ①住まいの近くにかかりつけ医を確保するため、本人理解をスムーズにする予診票を作成したい。
- ②サポートブック「なら Heart & Heart」をダウンロード形式に整理し、わが子の今後を考える一歩となるようにしたい。
- ③本人が家庭療養できない場合の備え（親子でのホテル療養）についても検討をお願いしたい。

「一歩踏み出す育成会」として考えていく一歩にしたい、とまとめました。



育成会会員の皆様へお知らせ

第61回近畿知的障がい者福祉大会 視聴について

大会の内容について、視聴をご希望の場合は、ブルーレイディスクを貸し出しいたします。

4 詳しくは、一般社団法人奈良県手をつなぐ育成会事務局（☎0744-29-0150）までお問合せ下さい。